



<歴史シリーズ・第1回> エンデュランス馬術の事

日本のエンデュランス馬術の歴史について、お話ししていきたいと思います。

日本のエンデュランス馬術は 1998 年頃から始まりました。

…1998 年、長野オリンピックが開催された年ですが、皆様は何をやっていらっしゃいましたか？

今、現役の皆様の中には、この頃にはまだ馬に乗っていなかった、エンデュランスという競技を知らなかった、という方が多いかもしれません。

まずは、エンデュランス馬術が「競技」として認められるまでの歴史について、簡単におさらいしておきましょう。

皆さまご承知のように馬術競技には「ブリティッシュ」、「ウエスタン」などがありますが、それらの歴史に比べまして「エンデュランス」はとて新しい競技です。

発端は 1950 年代、アメリカで西部開拓時代の流れとして「どちらの馬が強いのか」と長距離を争った西部魂から始まったと言われています。それが競技化されたのが「テビス・カップ」100-Mile One-Day Endurance Ride、毎夏にカリフォルニア州のオーバーン(Auburn)で開催されています。

1960 年代にこの競技はオーストラリアに渡り、「トム・キルティー・ゴールドカップ」として引き継がれております。

1970 年代になるとヨーロッパ、中東、アフリカに渡り、参加国・参加人馬も増大し、国際馬術連盟(FEI)により「馬術競技」として認められるようになり、世界馬術選手権でも行われるようになりました。

これらの変遷の中で着目すべき点は。

「テビス・カップ」のエンデュランスは標高差がおおよそ 2,300m くらいの山岳コースで行われる、まさに耐久レースであるのに対し、馬術競技として世界中で行われているエンデュランスで多くみられるのは、ほぼ平坦なコースでスピードを争うレースである事です。

馬を酷使しているのでは、との批判から、馬のウェルフェアのために、FEI 規定も大きく変わりました。

【予告】次回は「日本のエンデュランス馬術の黎明期(予定)」をお伝えします。

文責：日本エンデュランス・ライド協会 高鳥

